

平成29年度第2回流山市中小企業資金融資運営委員会 会議録

日時：平成30年1月17日（水）10時30分から12時00分

場所：庁議室

出席委員：流山商工会議所専務理事 上坂 操

（敬称略） 千葉銀行流山支店長 豊田 浩司

流山商工会議所常議員 小山 忠士

市民代表 青木 俊雄

市民代表 中 政之

事務局：流山市役所 経済振興部 次長兼商工振興課長 渋谷 俊之

流山市役所 経済振興部 商工振興課 課長補佐兼商工活性係長 柳 浩樹

流山市役所 経済振興部 商工振興課 商工活性係 主任主事 房野 恭子

流山市役所 経済振興部 商工振興課 商工活性係 事務員 金子 知樹

傍聴人：なし

議題：

1 開会

2 委員長あいさつ

3 報告事項

（1）平成29年度融資実績について

（2）平成30年度貸付利率等について

4 その他

（1）利子補給事務の手続きについて

（2）最新の金融情勢等について

豊田委員（千葉銀行流山支店長）からの説明

5 閉会

議事録：

1 開会

（渋谷次長よりあいさつ。資料の確認。）

2 委員長あいさつ

（上坂委員長よりあいさつ。開会宣言。）

3 報告事項

（1）平成29年度融資実績について

（事務局より説明）

委員：資料1の2ページにおいて、創業支援資金の申請がありましたが、業種等をなにか。

事務局：業種は障害児童の発達支援事業であった。資金使途は創業に伴う諸経費支払資金である。

委員：資料1の3ページにおいて、金融機関別貸付状況について、千葉興業銀行南流山支店の融資実行金額の内訳、種類を聞きたい。1件あたりの融資金額が大きければ、南流山地域では商業施設等の活性化がみられるのか。

事務局：3件55,000千円の内、2件34,000千円が運転資金、業種は工業機械刃物の製造販売業、建設機械販売業、1件21,000千円が設備資金、業種はプラスチックフィルム等加工業となっている。設備資金については、保有している加工機械の内、稼働率の低い機械の入替資金となっている。

委員：資料1の2ページにおいて、新規大型店舗対策資金について実績が無い理由は何があるか。

事務局：以前流山市において、大型店舗が建設された際に、設定した制度融資である。現在では、ネット販売事業が盛んであり、新たに実店舗として大型店舗が建設されることが少ないことが理由であると思われる。

委員：資料1の4ページにおいて、融資枠に対する運用率の推移で、年々減少傾向であるが、市としての体制はどうか。

事務局：市では、金融機関からの申請に基づき融資決定通知を発行している。

(2)平成30年度貸付利率等について

(事務局より説明)

4 その他

(1)最新の金融情勢等について

委員(千葉銀行流山支店長)からの説明

【国内景気全体】

7月から9月の実質GDP成長率二次速報はプラス0.6%、年率換算2.5%である。一時速報は0.3%であったが、上方改定された。7四半期連続プラスの成長である。

需要項目別にみると、輸出の増加を背景に外需の企業が大幅プラスになった。このことが成長率を上げた要因である。外需が景気を牽引する形が鮮明になった。

一方、国内需要にも底固さがある。製造業の国内向出荷は、建設材を中心にゆるやかに増加している。

【企業部門】

堅調に推移しており、輸出や生産の増加を受けて、企業収益が過去最高を記録している。設備投資も増加基調を継続している。

【家計部門】

7月から9月の個人消費は7四半期ぶりに減少している。夏場の天候不順、サービス商品等の下押しにも左右された。11月の失業率は2.7%となっており、1993年11月以来の低水準となっている。有効求人倍率も1.56倍となっており、1974年1月以来の高水準となっている。来年にむけて、賃金上昇圧力が強まっていけば、消費も増加していく可能性がある。

【公共投資】

公共投資は昨年末に設置した経済対策が一巡しつつある状況である。

【日銀短観】

12月に日銀が発表した日銀短観については、大企業製造業の業況判断指数は25ポイント増加し、11年ぶりの高水準となっている。大企業非製造業は23ポイントの増加となっており、前回と同じ水準である。中小企業製造業は15ポイントの増加、5ポイントの改善となっている。中小企業非製造業は9ポイントの増加、1ポイントの改善となっている。このことから、全体的に改善している。しかしながら、先行きについては人手不足や資源価格の高騰により慎重な見方が多い。

総じて、景気は回復基調であり、企業部門は生産拡大基調である。設備投資も増加基調であるが、先行きは慎重な見方である。家計部門は堅調な企業収益、人手不足を背景に良好な環境である。個人消費は期待よりは遅れているが、緩やかに回復している。

【金利】

長期金利について、日銀の金融緩和施策の導入により、1年半前はマイナス0.3%であった。その後イールドカーブコントロールにより、0から0.1%で金利操作することを継続している。1月16日では0.08%となっている。日銀は長期金利上昇をけん制して0.1%を上限としているので、多少上下があっても上限はこのままであると思われる。

【物価】

2%の増加を目標としているが、目標達成が見込めるのは2019年頃と先送りしている状況である。現状は生鮮食品を除く消費者物価指数は0.9%となっている。エネルギー関連の上昇が影響して、上昇している。

【相場】

以前はイギリスのEU離脱問題があり、為替は1ドル100円を切り、日経平均株価は

1万5千円を切っていた。直近（平成30年1月16日）では、為替は1ドル110円付近、日経平均株価は円安や日米景気が好感され、23,900円まで上昇している。景気は良い、企業業績も良い、アメリカの政策も好感され、良い環境となっている。今後の見通しはたてづらいが、北朝鮮のミサイル、核問題が懸念される。他、突発的な要因としてアメリカの政策等注視していく必要がある。

最後に事務局から事務連絡の後、閉会。

以上